第5回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会　議事要旨

1．開催日時：平成28年3月1日（火）　14：00～16：00
2．場　　所：千曲川河川事務所　大会議室
3．出席者　：平林座長、島野委員、豊田委員、北野委員、傳田委員、
中村委員、新家委員（塚田代理）、中山委員（山崎代理）、
上平委員（岩下代理）、北島委員（小根澤代理）、青木委員（中村代理）、
清水委員（西林代理）、吉池委員、富岡委員、依田委員（田村代理）、
堤委員（長谷川代理）

4.議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見

1)資料1　平成28年度掘削予定箇所について

＊洪水規模についてはH25洪水規模だけでなく、その他の洪水規模についても実施しているか？

→今はH25洪水規模のみであるが、長期としては今後10年程度の洪水を計算して維持されるか確認していく予定である。短期としてはH25洪水規模以外は計算していない。

2)資料2　モニタリング計画について

＊H26施工箇所でイカルチドリが確認されて良い反応が見られているが、保全のために利用者の制限などはどうなっているか？

→現状としては川に散策に来た人が気軽に行くには、行きづらい場所ではある。簡単な立ち入り規制としてトラロープも行っている。

＊たまりで確認されているトウヨシノボリは、本川で見られない魚種であり、鼠地区での調査経験からたまりは冬季に干上がる様な特殊な環境になって無いか？

→水深がある箇所であり、基本的には干上がる事はない状況である。

☆湧水は、たまりと低水路の水位との標高差を観測すると伏流水の還元量が簡単に推定できるため、その様な調査もしていけば他地域での保全にもつながるのではないか？

→今後の調査で参考としたい。

＊1年間通じて水がたまっているたまりが6箇所あるという理解でよいか？

→その通りである。

＊礫河原はどれ位の期間維持できればよいと考えているか？

→整備後も小規模な出水によって多少の土砂体積は生じるが、洪水の発生状況にもよるが、およそ10年に1回発生する規模の洪水での回復を考えている。

☆H26施工の切り下げ面が砂になっている箇所ではオオブタクサが生えてきているので、粟佐地区の様に今後植生遷移で砂礫が無くなってしまう恐れがある。このため、砂礫が

出る高さまで掘削するとか、事前に何 m 掘ったら礫が出るかの事前調査などを行った方が良い

→H26 施工箇所では当初礫が出ていたのが洪水で砂がたまったりする箇所もあるので、意見も参考としながら今後の整備で反映させたい。

＊H26、27、28 施工箇所は元々砂礫の場所という理解でよいか？

→その通りの認識である。

＊澪筋の固定や深掘れで高低差がついたためにこの様な整備をやっているという理解で良いか？

→その通りである。

☆H26、H27、H28 と近い区間で施工しているため、H26～H28 一体での大きな視点での評価が必要ではないか？

（他河川でも局所的にはやっているが、千曲川では近接施工でこれだけ大規模な整備になっているので、評価もスケールを大きくしても良い）

→今後の調査で参考としたい。鳥類調査として 1 区間の中でだけでなく、一連区間全体として数の増減も見たら良いという助言もあるため、全体として判断していきたい。

☆植物の事後調査が秋だと洪水前の状況が分からないため、整備箇所の状況変化が分かる現地写真があった方が良い。また、写真は具体に植物の種が分かるくらいのレベルが良い。

→これまで定点的な写真を冠着橋の上から毎月撮影していたが、今後は近くでも撮影する様に対応する。

3)資料 3　今後の整備箇所について

＊カワラヨモギ面積がポイントであるが、本当は減少が激しい場所を対象とすべきではないか？

→失ったものの再生は非常に労力がかかるため、まずは現状としてカワラヨモギ面積は多いが、放置すると今後カワラヨモギがなくなる恐れがある箇所の保全を優先的に考えている。

☆私は失ったものの再生を行うのが優先だと思う。意見として参考にしてほしい。

☆カワラヨモギがあるのは砂礫河原なので「掘って効果の高いところ」「掘って効果が長い年月維持されやすいところ」と推測される（今回優先レベルが高い常田新橋周辺も砂礫が出ている箇所なので良いと思う）。

＊希少種を守る場合は、上流・下流の個体群の維持のされ方を踏まえた整備の視点が重要であり、どう考えているか？例えば、上流から整備した方が下流に拡がりやすいのであれば、上流からの整備が考えられる。

→カワラヨモギの種子の供給源として上流側から整備していくというのは念頭にあり、今回も偶然であるが常田新橋が一番上流となっている。また、その次の坂城町の整備候補

箇所も適宜間隔が離れているので、場所としては適当と考えている。尚、供給源を起点とした拡大の仕方については今後資料に記載できる様、検討していきたい。

＊掘削土砂の処理は、どう考えているか？

→堤防補修など候補を色々検討中であるが、今掘削している土砂は堤防前に腹付けする形で仮置きし、今後の利用を考える予定である。

☆粟佐ではシードバンクの視点から表層土壌を取り除いて土中の以前いた植物の復活を考えていたが、カワラヨモギについてもその様な視点があるかもしれない。

☆掘削土は、別の箇所に持って行く際、土中にある外来種の種子により搬出先で外来種が拡散する恐れもあるので、留意して欲しい。

＊河川改修での掘削等でも出来る自然再生があり、それとの関連はどうか？

→現整備計画では対象区間で掘削がないため重複しないが、洗掘対策とのリンクは検討中である。また、流下能力確保のための河川改修の河道掘削も下流で行っているが、年１回浸かる高さを考慮するなど、自然再生事業の考え方を取り入れるところは取り入れている。

☆砂礫河原の再堆積に関する管理基準が今後必要な他、管理基準に達した場合には維持管理というお金のない状態で対応する事になると思われる。自然再生事業だけではなく維持管理や河川改修も併せたトータルの礫河原の再生～管理の視点が必要ではないか。

→今後検討していきたい。

◇今後の予定は４月モニタリング部会、5～6 月に技術部会、夏頃に検討会を考えている。